様式（評価機構フォーマット版）

2018 年度
自己評価報告書

（専門学校等評価基準 Ver.4.0 準拠版）

評価対象期間　自：2018 年 4 月 1 日
至：2019 年 3 月 31 日

評価基準日　2019 年 2 月 1 日

学校法人イーエスピー学園
専門学校ミュージシャンズ・インスティテュート東京

目　　次

教育目標と本年度の重点目標の評価 1

基準１　教育理念・目的・育成人材像 2

1-1　理念・目的・育成人材像 3

基準２　学校運営 4

2-2　運営方針 5
2-3　事業計画 6
2-4　運営組織 7
2-5　人事・給与制度 8
2-6　意思決定システム 9
2-7　情報システム 10

基準３　教育活動 11

3-8　目標の設定 12
3-9　教育方法・評価等 13
3-10　成績評価・単位認定等 15
3-11　資格・免許の取得の指導体制 16
3-12　教員・教員組織 17

基準４　学修成果 18

4-13　就職率 19
4-14　資格・免許の取得率 20
4-15　卒業生の社会的評価 21

基準５　学生支援 22

5-16　就職等進路 23
5-17　中途退学への対応 24
5-18　学生相談 25
5-19　学生生活 26
5-20　保護者との連携 28
5-21　卒業生・社会人 29

基準６　教育環境 30

6-22　施設・設備等 31
6-23　学外実習、インターンシップ等 32
6-24　防災・安全管理 33

基準７　学生の募集と受入れ 34

7-25　学生募集活動は、適正に行われているか 35
7-26　入学選考 36
7-27　学納金 37

基準８　財務 38

8-28　財務基盤 39
8-29　予算・収支計画 40
8-30　監査 41
8-31　財務情報の公開 42

基準９　法令等の遵守 43

9-32　関係法令、設置基準等の遵守 44
9-33　個人情報保護 45
9-34　学校評価 46
9-35　教育情報の公開 47

基準１０　社会貢献・地域貢献 48

10-36　社会貢献・地域貢献 49
10-37　ボランティア活動 50

教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標	2018 年度重点目標	重点目標・計画の達成状況	課題と解決方策
【教育の理念】 「誰もが光る原石である」という信念が学生との緊密な関係を生む。 個性を消して鋳型にはめることなく、一人ひとりが自分らしく輝くよう、力を尽くす。 【教育目的】 ヴォーカル、ダンス、演技などの身体表現を行うパフォーマンスに関する専門技術・知識を授け、さらに社会人としての人格を身に付ける教育を行い、音楽、エンタテインメント文化の向上に貢献しうるすぐれた音楽人、エンタテインメント人の養成を目的とする。	・単年度事業計画にもあるように、校名変更に伴い、従来の声優に関連するものではなく、今後はハリウッドにある Musicians Institute のカリキュラムが日本に居ながら学べるミュージシャンズ・インスティテュート東京として教育を行っていく。 但し、既に前校から在籍している学生もおり、これらの学生は引き続き卒業まで授業を行う。また、この学科は今後専門学校ＥＳＰエンタテインメント東京の１コースとして継続予定である。	2019 年 3 月で声優科、声優科３年制の学生は卒業し、在籍者はいなくなった。 声優に関連するコースは専門学校ＥＳＰエンタテインメント東京において、音楽アーティスト科の１コースとして再編が完了した。	校名変更、体制変更の初年度が終了し、無事声優科、声優科３年制の学生は卒業した。 今後はアメリカにある姉妹校 Musicians Institute の日本分校という、アメリカで培われた独自のカリキュラムを日本で受けられる学校として教育活動を行っていく。

最終更新日付	2019 年 2 月 1 日	記載責任者	鴻井　洋一

基準１　教育理念・目的・育成人材像

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
現在のミュージックシーンは世界的な配信を個人で気軽に行うことが可能となっている一方、ライブやコンサートといった事業も伸びており、今や変革の時代を迎えている音楽業界で果たすべきミュージシャンの役割は益々増大するものと考える。 そんな中、本校の果たすべき役割とは何か、と自問すると出る答えは本学園の教育の理念に行き着く。 どれだけパワーをかけても没個性的なものは淘汰されてしまう現代において、本学園の理念で謳っている「誰もが光る原石である」の言葉は、まさにこれからの時代に求められる輝きを放つ事を期待している。 入学適齢人口は年々減少し、同系学校間に関わらず大学とも競合する時代となっていることから、ＭＩメソッドを維持しつつ時代に即応したカリキュラムや、新しい学習システムの導入などに努めることが重要と考えている。	【教育の理念】 「誰もが光る原石である」という信念が学生との緊密な関係を生む。 個性を消して鋳型にはめることなく、一人ひとりが自分らしく輝くよう、力を尽くす。 【教育目的】 本校は学校教育法に基づき、ヴォーカル、ダンス、演技などの身体表現を行うパフォーマンスに関する専門技術・知識を授け、さらに社会人としての人格を身に付ける教育を行い、音楽、エンタテインメント文化の向上に貢献しうるすぐれた音楽人、エンタテインメント人の養成を目的とする。 育成人材像： それぞれの音を奏でる楽器をより高度に使い熟すだけでなく、楽器全般に精通し、音楽業界においてミュージシャンとして確固たる存在となり、日本に留まらない国際的に活躍できる人材（な視野を持った人材） 本校の特色： エンタテインメントの本場であるハリウッドにあり、世界的なミュージシャンを輩出してきたMI（Musicians Institute）のメソッドを日本にいながら学べる。 更には、これまで蓄積されてきたノウハウを生かし、日本のミュージックシーンに関連する独自のカリキュラムを展開する。

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

1-1　理念・目的・育成人材像

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
1-1-1　理念・目的・育成人材像は、定められているか	建学の精神に則った教育理念・目的・育成人材像を定め、エンタテインメント業界の発展に寄与していく。	教育理念に基づく育成人材像を定め、学生や教職員を含む関係者に周知徹底している。	校名変更および教育内容の変更により、現状の目的と適合していない。 今後学則上の目的を変更する必要がある。	学校ホームページ、学校パンフレット 学則
1-1-2　育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	業界のニーズを母体である世界的楽器メーカー㈱ＥＳＰ、及び講師から引き出す。	当校の講師は現役の業界人で構成されており、授業計画もその講師の意見を反映しつつMIメソッドに沿って作成されているため、適合していると判断する。	課題は特になし。	
1-1-3　理念等の達成に向け特色ある教育活動に取組んでいるか	理念等の達成に向けた教育活動に取り組んでいる。	MI メソッドに沿ったプログラムによる教育活動を行っている。	課題は特になし。	学校ホームページ、学校パンフレット
1-1-4　社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	エンタテインメント業界のニーズを把握した上で、中・長期計画を策定するべきである。	中・長期計画にて規定している。	中・長期計画の教職員、学生、保護者等への周知は行っておらず、今後行うべきと考える。	中・長期計画

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
大項目総括に同じ。	

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

基準２　学校運営

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校教育法、専修学校設置基準、及び各種法令に基づいて運営されている。 また、運営自体は問題なく行われているが、今まで株式会社イー・エス・ピーで運営されてきた経緯もあり、学校法人や認可校としての体制整備が不完全な部分もあり、今後はこれらの整備が急務である。	世界的ギター製作メーカー㈱ＥＳＰを母体としており、ギター製作の職人がもっと必要となったため、1983 年にギタークラフトマン、リペアマン養成を目的とする日本ギター製作学院を設立し、現在の学校法人イーエスピー学園へつながっている。 MI Hollywood は 40 年の歴史を持ち、これまでに数多くのワールドクラスのミュージシャンを輩出するなど、米国でもパイオニア的な存在として確固たる地位を築いている。専門学校ミュージシャンズ・インスティテュート東京は、米国で培われた世界的にも実績のある独自のカリキュラムを日本にいながら学べると同時に、日本の音楽シーンに関連するカリキュラムを展開する。また、MI Hollywood への研修プログラム（一週間）があり、エンタテインメントの本場の空気を肌で感じる貴重な機会を提供している。 以上のようにハリウッドとの協力体制のもと、本場アメリカのエッセンスを得られる環境であり、本学卒業後に MI Hollywood へ留学する道も開かれている。

最終更新日付	2019 年 2 月 1 日	記載責任者	鴻井　洋一

2-2　運営方針

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
2-2-1　理念に沿った運営方針を定めているか	理念に沿った運営方針は定められており、運営方針に基づき運営されている。	MI メソッドを実施するにあたって、環境整備が不可欠であり、本学園の他校と同様の運営方針である。	運営方針は定められているが、その文書化等は行っておらず、周知は十分とは言えない為、今後は周知徹底する。	中・長期計画

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
運営方針の文書化、及び周知が不十分であるため、今後明確化し、全体へ周知徹底していく。	株式会社イー・エス・ピーで運営してきた音楽学校(MI JAPAN)にて採用した、業界の第一線で活躍するプロであり、人格・教授力にも優れた講師が、継続して在籍している。 また、声優に関する学科の講師も、前校であるＥＳＰアニメーション声優専門学校から継続して在籍している。 機材をはじめとした設備・備品等は業界で現行使用されているものや、最新のものまで整備している。

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

2-3　事業計画

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
2-3-1　理念等を達成するための事業計画を定めているか	理事会において中・長期計画、及び単年度事業計画を検討、承認し、日々の業務へ落とし込む。	前年度の事業報告書からの反省点、改善点を検討し、中・長期計画、及び単年度事業計画を策定する。 そこで定めた目標を達成すべく日々の業務を行っている。	新規の計画等、想定外の事案がある場合には、予備費からの支出とし、実行可能な人材を調整し実施している。 定期的に進捗確認、見直しを行うよう図るべきと考える。	中・長期計画、単年度事業計画

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
理事会において前年度の事業報告、及び本年度の事業計画の検討、承認を得て事業を適正に進めている。	特になし。

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

2-4　運営組織

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
2-4-1　設置法人は組織運営を適切に行っているか	私立学校法等及び寄附行為に定めるところにより、理事会、評議員会を適切に運営する。	寄付行為で定めるところにより、理事会、評議会を開催、審議を行っており、議事録も作成、格納されている。	課題は特になし。	寄付行為、評議会議事録、理事会議事録
2-4-2　学校運営のための組織を整備しているか	学校教育法、及び私立学校法に基づいて学校運営のための組織を整備する。	組織の設置は組織図等で整備・整理されている。 評議会、理事会での決議後に学校長によって教職員に周知が図られる。	一部規程等の整備、明確化が不十分であり、その明確化を視野に入れ整備していく。	組織図、業務分掌、各種規程・マニュアル

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
今日までの業務遂行にあたり、特に明確化されていない規程等があるため、その整備が急務である。	各科担当者、及び各部署責任者から理事長への上申、フィードバックが容易な体制であり、現場の意見、業界のニーズの運営への反映がスピーディーに行われている。

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

2-5　人事・給与制度

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
2-5-1　人事・給与に関する制度を整備しているか	就業規則等によって明確化されており、適切に運用されている。	人事部による選考、採用マニュアルによって運用されている。 採用基準についても筆記試験による教養評価、2回の面接による人物評価によって教職員に相応しいと判断された者を採用している。 また、賃金規程によって給与決定を明示している。	雇用契約書上において、暴排条例についての記載が無かったため、過去の分は覚書を交わし、今後の分は条項を記載して対応する。	就業規則

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
人事・給与制度は就業規則等によって明示されており、採用に関してもマニュアル化しているため、適切に運用されている。 ただし、暴排条例等の条項が雇用契約書や業務委託契約書に無いものがあるため、覚書を交わす必要と、今後のものについては条項を記載する必要がある。	特になし。

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

2-6　意思決定システム

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
2-6-1　意思決定システムを整備しているか	組織図に基づき、各会議、及び教職員によって構成される委員会によって意思決定され、その決議を最終的に評議会、理事会によって承認される体制となっており、整備されていると考える。	財務等においては学園会議、教務等においては教務会によって稟議書を提出し、妥当か否かを審議している。	課題は特になし。	組織規程、組織図、業務分掌

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学園事業と学校事業、教務的事業等、意思決定はそれぞれにおいて行われるが、最終決定は理事長の承認を以ってされる。 それによって、理事会の関知しないところで事業が進むという弊害を防止されている。	特になし。

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

2-7　情報システム

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
2-7-1　情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	情報の流出等には十分に備えた上で各業務に必要な情報の電子化等を行い、業務の効率化を図るべきと考えている。	学生に関する情報管理及び関連事務作業を同一のシステムを使用することによって効率化が図られている。 学科の教員、及び教務職員にも同様のシステムによる管理がされ、最新情報が随時閲覧可能であり、学生指導において活用されている。 また、上記システムは通常のインターネットからは隔離して構築されている等、セキュリティー面については常時管理している。 なお、卒業生データも全て電子化し、同システムに統合されている。	来年度以降に向けて成績評価基準としてGPA制度の導入を検討しており、その運用について同一システムで可能か、要検討。	情報管理システム運用規程 個人情報取扱規定

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
情報システム化については個人情報の保護を常に念頭に置き、業務の効率化のために整備を進めている。	独自のネットワークを構築しており、外部からのアクセス等についてのリスクは非常に低いと考える。

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

基準３　教育活動

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校の目的でもあるエンタテインメント人の育成は､MI メソッドに沿って行われており、このカリキュラムを日本で受けられる事が本校の特徴である。	「Live Playing Workshop」ライブ形式のアンサンブル 「Elective」専門性の高い選択授業 「Open Counseling」自由参加のカウンセリング 以上の三要素をスペシャルカリキュラムとして整備し、ベーシック&テクニックで基礎力、技術を学び、三要素によって応用力、さらに高度な技術、広範囲技術・知識、及び講師に対して自由な指導を受けることができ、ミュージシャンとしての力を身に付ける。 また、本学園の他校にはないカリキュラムとして語学があり、英語を使ってコミュニケーションをとることで「使える英語力」を身に付ける。 これによって、卒業後に Hollywood へ留学するための第一歩となる。 MI Hollywood および当校の卒業生などの関係者によるスペシャルセミナーを開催しており、著名なアーティスト、業界人から話を聞き、アドバイスをもらえる機会を設けている。

最終更新日付	2019 年 2 月 1 日	記載責任者	鴻井　洋一

3-8　目標の設定

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-8-1　理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	理念に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めている。	音楽業界の最新技術を学ぶ為に、活躍している講師からのフィードバックを得て、MI メソッドに沿ってカリキュラムを編成している。 また、実施にあたっては教育の質の水準確保のため、少人数制で教育を行っている。	方針を定めて教育課程を編成、実施しているが、特に「方針」として明確に文書化をしてはいない。 主に学校ホームページ、パンフレットに記載されているが「方針」として明示していないので、明確化する。	学校ホームページ、学校パンフレット
3-8-2　学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	コース毎の教育到達レベルを設定している。	授業内での課題曲や、試験用課題曲の出来によって達成率を計っている。また日頃の授業に対する姿勢も加味している。	基本的にはそれぞれの科目において課題や試験を設け、その達成率や完成度によって評価している。	シラバス

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
方針として明確化はしていないが、方針自体は既に各媒体に記載しており、今後方針として明確化する。	教育到達レベルについては課題、試験等で教育到達レベルを確認し、教師の絶対評価によって評価している。

最終更新日付	2019 年 2 月 1 日	記載責任者	鴻井　洋一

3-9　教育方法・評価等

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-9-1　教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	Musicians Institute のカリキュラムを反映した教育課程を編成する。	Musicians Institute のカリキュラムを基本として、それ以外に日本の音楽シーンに沿った独自の選択授業を設ける方針である。	編成方針は左記の通り定まっているが、特に文書化、明確化していない為、今後これを文書化、明確化していく予定である。 教育課程編成方針文書	
3-9-2　教育課程について、外部の意見を反映しているか	Musicians Institute のカリキュラムを日本にいながら学べるのが本校であり、一部では外部の意見を反映可能である。	日本の音楽シーンに沿った独自の選択授業として業界で活躍中の講師の授業を行っている。	左記の他に、学校関係者評価委員会の設置を検討。	学校関係者評価委員会規程
3-9-3　キャリア教育を実施しているか	専門学校として学生のキャリア発達における最も重要な役割を担うべく、体制に万全を期すべきと考える。	キャリアサポートセクションを設置しており、学生の就職へのサポート体制を構築しており、同部署によって様々なサポートプログラムを設けており、キャリア教育の充実を図っている。	特に課題はなし。	
3-9-4　授業評価を実施しているか	授業評価を実施するべきと考えている。	年2回学生アンケートにより授業評価を行っており、その結果をもとに、授業の更なる質の向上を図っている。	卒業生に対する学生アンケートを今年度実施予定。	アンケートの実施報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育課程について原則Musicians Institute eのカリキュラムを受けて編成されており、一部日本の音楽シーンに合わせた内容は選択授業によって音楽業界で活躍中の講師によって行われる。	特になし。

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

3-10　成績評価・単位認定等

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-10-1　成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	成績評価・修了認定基準、双方明確化するべきと考えている。	学則等への規定は行われておらず、慣例としてA～Eとして評価としている。	今後学則への記載と、規程として明確化が必要である。	
3-10-2　作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	キャリア発達にも直結する事案であり、また、成績評価にも反映されるため、成果の把握は確実に行われるべきと考えている。	学校主催の年 4 回以上のライブイベント、当学園主催のイベント出演、及び外部オーディションの状況等は常に情報収集を行い、把握に努めている。	課題は特になし。	学校パンフレット

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
規程が無いものもあるため、この整備を順次行っていく。	現状の成績評価はA＝90 点以上、B＝80 点以上、C＝70 点以上、D＝70 点未満、E＝履修放棄（A～C が合格、D、E を不合格）としている。 全てが選択、または選択必修であるため、不合格科目が一つでもあると進級判定、又は修了認定が不可となる。

最終更新日付	2019 年 2 月 1 日	記載責任者	鴻井　洋一

3-11　資格・免許の取得の指導体制

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-11-1　目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	資格・免許等の取得は現状の教育課程ではない。	本校においては、主にミュージシャン､アーティストとしての技術等を学ぶものであり､資格取得を位置付けてはいない。	現在の設置コースではミュージシャン､アーティストの養成を目的としており､資格取得を目的としたものはない。 2019 年度より設置するサウンドクリエイターコースにて、Pro Tools101&110 の Avid 認定資格の取得をめざすカリキュラムを作成中である。	
3-11-2　資格・免許取得の指導体制はあるか	ミュージシャンに必要なのは演奏技術、作詞･作曲能力等であり､これらに関する資格はない。	資格取得については学生の自主性に任せている。	本校講師が Avid 認定資格のインストラクターの資格を取得し、2019 年度より設置するサウンドクリエイターコースにて、指導を行う予定である。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
資格取得は本校学生の目指す先に無く、あくまで学生本人が必要であれば取得するものであり、基本的に学生の自主性に任せている。	特になし。

最終更新日付	2019 年 2 月 1 日	記載責任者	鴻井　洋一

3-12　教員・教員組織

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
3-12-1　資格・要件を備えた教員を確保しているか	教員の採用条件として、エンタテインメント業界の第一線で活躍しており、教授力のある者を教員として採用している。	左記条件に該当しつつ、学校教育法上の欠格事由、並びに東京都暴力団排除条例に定義される規制対象者該当しない者を面接等所定の審査を行う。	誇張された経歴で教員として応募されるケースもあり、採用基準については都度検討している。	
3-12-2　教員の資質向上への取組みを行っているか	専門学校として教員の資質の把握、及び向上は常に行われるべきと考えている。	卒業生へのアンケート、及び授業評価によるフィードバックによって実施されている。	卒業生へのアンケートを来年度卒業生から行う予定である。	アンケート実施報告書
3-12-3　教員の組織体制を整備しているか	教員の組織体制は都度見直しを行い、整備している。	学科責任者を筆頭に各コース主任、科目担当講師という体制である。	業務分担、責任体制は業務分掌によって明確にされている。	業務分掌

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教員の確保は継続的に行われており、現状では特に支障はない。	

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

基準４　学修成果

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
本校校は、アーティスト（演者）を目指す学生が殆どのため、卒業後の就職を考えていない、または就職活動を行わない学生が一定数おり、またアーティストとして活動を開始しても個人事業主となるため、学校全体の就職率という面では測り辛い。 しかし、就職を希望して就職活動を行っている学生へのサポート体制はキャリアサポートセクションを中心に十分に整備されており、今後も現状の方針を継続していく予定である。 また、当学園は業界との緊密な関係を維持していること、及び卒業生も継続して当学園の各種サービスを受けることが可能なことから、卒業後も関わりを継続することが多く、卒業生との関わりも当学園の重要な運営方針でもある。	左記の通り、アーティスト（演者）を目指す学生が大半であり、学校全体としての就職率という数字ではどうしても良い数値にならない。 しかし、各オーディション情報は最新の情報を手に入れることができ、エンタテインメント業界関係者を招いた学内コンテスト等、本学独自のプレゼンテーションの機会、及び一般には公表されない求人情報等、エンタテインメント業界と密接な関係を維持してきた本学の強みがある。

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

4-13　就職率

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-13-1　就職率の向上が図られているか	音楽の専門学校であり、特にアーティスト（演者）を目指している学生は就職活動自体をしない傾向である。 就職希望者へのサポートを万全にすべく体制の整備を行っている。	キャリアサポートセクションという学生就職用の部署を設置し、学生の就職サポートを行っている。 また、就職ガイダンスを１年生から行っており、就職を希望する場合のサポート体制は整備されている。	課題は特になし。	学校ホームページ、学校パンフレット

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
上記の通り、学校全体で見る就職率という点では、就職活動自体を行わない学生が大半であり、良くない。 しかし、就職を希望し就職活動を行っている学生への体制は整備されており、当校で独自に集計している「キャリアサポートセクションを活用している学生の就職率」は満足できる数値である。	特になし。

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

4-14　資格・免許の取得率

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-14-1　資格・免許取得率の向上が図られているか	基本的に本校で資格取得に関する奨励は行っていない。 運転免許は夏休み期間が短い為、合宿を案内。	エンタテインメント業界において資格の有無によって就職に大きく響くということはなく、現場での対応力が問われる。 従って、資格取得のための授業を補完する学習支援はエンタテインメント業界からのニーズにも合っておらず、行っていない。	左記の通り、資格取得に関して取得率の向上等は図っていない。 しかし、運転免許については業界問わず必要になるため、合宿を案内している。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
基本的に資格等は全て個人の裁量による。	特になし。

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

4-15　卒業生の社会的評価

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
4-15-1　卒業生の社会的評価を把握しているか	卒業生との関係は当校にとって必要不可欠、且つ重要なものであると認識している。	キャリアサポートセクション、デビューサポートセクションによって卒業生のその後も把握されており、デビューサポートやOB・OGセミナー等に活用されている。	課題は特になし。	学校ホームページ、学校パンフレット

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生との関わりを良好な状態で維持していくのは当学園の方針でもある。その中で一定の成果を上げて、所謂凱旋する卒業生もおり、今後もこの方針を維持していく予定である。	学園祭において卒業生を対象にした「HOME COMING DAY」を開催しており、毎年相当人数が来校している。 また、卒業後にも当校の施設やキャリアサポート、デビューサポートセクションの利用が可能であり、卒業生に対するサポートも継続的に行っている。

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

基準５　学生支援

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校として法令に定められている各種規程は定められており、また通常学校が整備するべき各種支援体制も整っている。 留学生の在留資格変更等も支援しており、実績として留学生の日本国内への就職も数多くある。 経済面での支援も各種奨学金の案内や、学費納入についての個別対応等、他校と比較しても遜色のない体制である。	音楽の専門学校である当校において、デビューやそれに関連する活動に対する支援が手厚いものである。 また、エンタテインメント業界への就職情報も、一般に公表されていない独自の情報が多数ある。

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

5-16　就職等進路

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-16-1　就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	当校の学生が目指すのはデビューやエンタテインメント業界への就職であり、それぞれに専用部署を整備している。 今後も現状の体制を維持していく方針である。	学生支援部の内、デビューサポートセクション、キャリアサポートセクションがあり、それぞれデビュー、就職に関してサポート体制を構築している。	特になし。	組織図、業務分掌、学校ホームページ、学校パンフレット

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
上記の通り、デビューサポートセクション、キャリアサポートセクションを設けて支援体制を整備している。 もちろん、全員が希望するままの就職先ではないが、ある程度希望に沿った進路を選べていると考える。	デビューサポートセクション、キャリアサポートセクション共に卒業後も利用することが可能であり、在学中に希望する進路に就けなかった場合でも、卒業後に希望通りの進路となるケースも多々ある。 また、進路変更によって就職する場合のサポート体制も整備されている。

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

5-17　中途退学への対応

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-17-1　退学率の低減が図られているか	金銭面・精神面等、様々な事情による退学であるため、一概に退学率の低減を是とするのも難しい。 しかし、個別に事情をよくヒアリングし、状況に応じて最大限協力する体制をとる。	退学手続の際、必ず学科の教職員と話し合いの後に退学手続に移行する体制になっており、また手続きの際、理由を記載させているため、要因・傾向の把握に努めている。 また、前述の学生管理システムにより退学者数の把握は随時行われている。	課題は特になし。	退学者データ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中途退学は、上記の通り様々な事情によって発生するので、一概に低減を是とすることはできないが、出席率の低下による進級・卒業不可については、毎週出席率の増減を確認しており、著しく低下した場合や進級・卒業にかかわる場合は随時面談を行っている。	特になし。

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

5-18　学生相談

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-18-1　学生相談に関する体制を整備しているか	学校関係者には聞かれたくない、知られたくないという相談もあることを想定し、カウンセラーが複数所属しているNPOへ委託している。	基本的に学校関連での相談がある場合には個別対応をしており、特に学内における選任職員は配置していない。 個人的な相談内容の場合、専任のカウンセラーへ業務委託しており、毎週木曜日に相談室を開催しており、掲示板、及び学内SNSでの告知で案内している。	気軽な相談というものであり、相談内容を記録するという契約にはなっていない。 あくまで相談があった旨と、重大な問題があった場合に報告があるものである。	学内 SNS、学内掲示板相談室案内
5-18-2　留学生に対する相談体制を整備しているか	専任の部署を設置し、その部署での一括管理を行う。	ICC（インターナショナルコミュニティーセンター）という部署を設置し、留学生に対するサポート全般を遂行している。	留学生の就職に際して、在留資格の変更が困難である場合がある。 在留資格取得基準の緩和が必要である	組織図、業務分掌

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
全学生と年2回以上の個別面談を実施。事前アンケートをとり、各授業の難易度・満足度、学校生活の状況などの聞き取りを行っている。 また、相談体制としては専任のカウンセラーへ委託して学校関係者には聞かれたくない、知られたくないという相談にも対応できる体制にしている。	特にアーティスト（演者）として活動を希望する留学生の在留資格取得が難しく、日本国内での活動においては大きな障害である。

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

5-19　学生生活

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-19-1　学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	経済的支援として学費、及び奨学金の担当者を配置し、様々な事情による対応を行う。	学校独自の奨学金制度としてイーエスピー学園卒業生・在校生兄弟姉妹特別奨学生という制度を整備している。 また、減免は被災生徒等授業料等減免補助金の申請可能な場合に対応する事としている。 さらに現状で年間２期での分納が認められているが、止むを得ない場合（ローン等申込が不承認等）に更なる分割も条件付き特例で認める場合がある。 条件付き特例で認める分割以外についてはホームページ、掲示板等で告知し、経済面での質問は専任の職員によって一括管理しされている。	家庭の経済事情を考慮して様々な対応を行っているが、どうしても厳しいという状況もあり、止む無く退学という場合も不本意ながらある。	業務分掌、学校ホームページ 学校パンフレット
5-19-2　学生の健康管理を行う体制を整備しているか	保健計画に定める範囲、及び講義内での健康管理について指導する。	保健計画を定め、日常の健康管理は講義内でも社会人としての健康管理として触れて、指導している。 保健室の常設はしていないが、有事には保健室として利用可能なスペースは確保してある。 また、学校医として外部医院の医師を選任し、委託している。	課題は特になし。	学校保健・安全管理計画 定期健診実施要項

5-19-3　学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	提携している学生寮運営会社により委託されている管理人がおり、それによって支援体制は整備されていると認識している。	学生寮の設置自体はしてないが、学生寮の運営をしている複数の会社と提携し、整備されている状態としている。	課題は特になし。	提携寮会社との契約書等
5-19-4　課外活動に対する支援体制を整備しているか	学外での活動支援を行っており、学生の学外ライブ活動等様々なサポートを行う。	また、学外での活動サポートとして、学外のライブハウスを定期的に借りてライブイベントを企画・開催し、その際に発生したチケット代は参加バンドへ 100%還元している。	課題は特になし。	学校パンフレット、学校ホームページ、Brand New Way ホームページ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生生活を送るにあたり必要な支援体制は整備されていると認識している。また、経済面での支援はセンシティブな問題でもあるため、細心の注意が必要である。	音楽の専門学校であるので、通常の学生サポートの他、主に音楽活動関係のサポートが手厚い傾向である。

最終更新日付	2019 年 2 月 1 日	記載責任者	鴻井　洋一

5-20　保護者との連携

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-20-14　保護者との連携体制を構築しているか	基本的に個別対応を行う体制としており、それによって細やかな要望等に対応する事を可能とする。	保護者会等は組織していないが、教育活動に関する情報を年 2 回送付しており、出席状況を共有し、保護者と連携した指導を行っている。 また、電話や直接来校による保護者からの相談も学科担当者及びそれに準ずる者が対応している。 緊急時には情報管理システムに登録されている情報から保護者の方へ個別に連絡する。	課題は特になし。	保護者宛て発送資料

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
全国から集まる学生たちの保護者の保護者会の開催は現実的ではなく、また参加できる保護者とできない保護者との格差が生まれてしまう懸念があるため、基本的には保護者会を組織する予定はない。 保護者との連携はあくまで個別の学生の諸問題に対して行われるべきであり、その環境整備は整っていると考える。	

最終更新日付	2019 年 2 月 1 日	記載責任者	鴻井　洋一

5-21　卒業生・社会人

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
5-21-1　卒業生への支援体制を整備しているか	学生との緊密な関係を築き、卒業後もそれを維持してく方針である。	同窓会等は組織していないが、デビューサポートセクション、キャリアサポートセクションを卒業後も活用できる。	学内ＳＮＳは卒業生も引き続き利用可能であるが、コンテンツ不足、情報不足が見受けられるので、今後は充実を図りたい。	学校ホームページ、学校パンフレット、学内ＳＮＳ
5-21-2　産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取組んでいるか	取り組んでおらず、今後も行う予定はない。	現状は行っていない。	授業時、及び空き教室はレンタルスタジオとして使用しており、卒業後のプログラムを組む余地は現状無い。	
5-21-3　社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	社会人学生を受け入れることは現状想定しておらず、今後もこの方針に変更はない。	社会人経験者の入学は問題ないが、働きながら履修できる体制は取っていない。	時折、社会人学生としての問い合わせもあるが、当校ではそのような体制の整備はされておらず、対応可能な他校へとアナウンスしている。	学則

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
卒業生との関わりは今後も継続的に行われるべきであるが、過剰な干渉をすると他の卒業生との不公平も生じてしまうため、あくまで卒業生からアクセスがあった場合に対応するに留めている。 当校は一定水準の汎用的な能力と専門性を持った学生の輩出を目的としているが、基本的に学外での活動を奨励しており、資格取得やキャリアアップは相談があった場合を除き、個人の裁量に委ねている。 また、教育課程編成上学外生向けの講座を設ける枠が現状なく、現状では行う予定はない。	当校の方針として学生との緊密な関係を築き、維持すること、そして卒業後もデビューサポート、キャリアサポートセクションの利用が可能であることから、卒業後にも来校する卒業生が多く、そこから業界の最新情報やデビュー・就職情報が入ってくることもある。

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

基準６　教育環境

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
教育上必要な設備は整備されており、法令上の基準は満たしている。 また、前項でも記載したが、卒業生も学校の施設利用を可能としている。 防犯、防災等安全に関わる事案はマニュアル等規程を策定しており、学生の生命の安全を第一に考えている。	当校の施設・設備はエンタテインメント業界における一般的な機材から最新・高性能の設備まで揃えられており、非常に充実している。

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

6-22　施設・設備等

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
6-22-1　教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	法令上での基準を満たした施設・設備を整備する。	各学科、各コースにおける必要な設備等は整備されており、法令上の基準は満たされている。 また、前項でも記載したが、卒業生にも施設利用を可能としている。	技術は日進月歩であり、設備も同様であるため、その対応に遅れることが無いよう計らっている。	学校ホームページ、学校パンフレット

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
施設・設備は最新・高性能な機材を整備し、学生が学びたいことに対応でき、また学ぶ意欲の向上につながるよう計っている。	エンタテインメント業界でも最新・高性能な機材を導入し、どの現場でも対応可能な能力を身に着ける。

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

6-23　学外実習、インターンシップ等

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
6-23-1　学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	学外実習そのものを単位化等、教育課程上では特に整備はしていないが、当校では学外活動を奨励していることから、事前に申請をすることで就職活動やインターンシップ・オーディションは出席扱いとすることが可能である。	就職活動やインターンシップ・オーディションで授業を欠席する場合は事前申請により出席扱いとすることも可能である。 また、海外研修プログラムも設定しており、参加期間中は出席扱いとなる。	学校主催のイベントへの出席はカウントしているが、今後は左記以外の学外活動でも事前に申請をすることで出席扱いとし、学外活動の奨励を充実させていきたい。	学則、研修旅行実施報告 学園祭・各イベント実施報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
また、学校行事への参加は出席として記録しているが、評価につながるものではないため、学校行事参加の単位化を検討中である。	ハリウッドへの海外研修旅行など、姉妹校との緊密な関係によって実施されている。

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

6-24　防災・安全管理

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
6-24-1　防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	防災計画、消防計画、及び災害対応マニュアル等を整備し、有事の際に被害の最小化に努める。	各種計画、マニュアルは整備されている。 各校舎等も耐震化に対応済みであり、消防設備の保守点検を法令に基づき行っている。	防災計画、及び関連マニュアルの整備はされているが、教職員、及び学生への周知徹底が不十分であることが判明。 マニュアルの配布等周知徹底を推進する。	防災計画、消防計画、災害対応マニュアル
6-24-2　学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	学校安全計画、及び関連マニュアルを整備し、有事の際に的確に対処できるよう整備する。	学校安全計画を保健計画と並行して策定しており、運用している。 また、防犯マニュアルを策定しており、教職員への周知徹底が必要である。	学校安全計画、及び関連マニュアルは整備してはいるが、教職員、及び学生への周知徹底が不十分であることが判明。 掲示等によって周知徹底を推進する。	学校危機管理マニュアル

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校として必要な規程の整備はされてはいたが、教職員、及び学生への周知が不十分であった。	本学の施設は全て耐震化されており、有事の際には基本的に学内施設に留まり安全を確保する。

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

基準７　学生の募集と受入れ

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生募集は SNS の活用や、ホームページからのアクセス等、電子媒体を主軸に置きながらも、AO 入学のエントリー条件としてオープンキャンパスへの参加を明示していることから、直接来校し、学校説明を受けた方からの出願が最も多い割合となっている。 入学選考基準は明確化されており、全データは毎年度蓄積を行っている。 学納金データも算定内容、決定過程を明確にしており、学則変更の際に明示済みである。	アドミッションポリシー:「エンタテインメント業界で活躍する夢の実現をめざし、目的意識と熱意を持って学ぶ意欲のある者」としている。

最終更新日付	2019 年 2 月 1 日	記載責任者	鴻井　洋一

7-25　学生募集活動は、適正に行われているか

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
7-25-1　高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	進路説明会において情報拡散に努めるべきと考える。	全国の進路説明会に参加し、情報提供を行っている。 また、専門学校 ESP エンタテインメント東京の出張メンテナンス・リペア等による情報拡散も見込まれる。	課題は特になし。	募集要項、学校ホームページ、学校パンフレット
7-25-2　学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	本校に関わる各情報はホームページ上で公開されており、入学対象者へ募集状況のお知らせ等を行うことで応募可能であることを周知する。	本校の入学時期は４月のみであり、それに向けた願書受付としてＡＯ入試、推薦入試、一般入試を実施している。 また、学生募集活動における情報管理も法人全体で導入しているシステムによって一括管理されている。 また、オープンキャンパスは毎月行われており、その中で遠方から来校が難しい志願者に対しての対応も行っている。	課題は特になし。	募集要項、学校ホームページ、学校パンフレット

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学生募集において、メインは高校生であり、現在の高校生のメインツールであるスマートフォンに対応したＳＮＳ、ホームページの充実、分かり易さが重要である。 また、高校２年生の終盤で既に進路を固めている高校生が多いので、夏のオープンキャンパスが非常に重要なファクターであると分析している。	特になし。

最終更新日付	2019 年 2 月 1 日	記載責任者	鴻井　洋一

7-26　入学選考

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
7-26-1　入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	入学選考基準は学則によって規定し、公平性を確保した運用をすべきと考える。	入学選考基準、方法は学則に明記されている。 合否判定体制は事務局で行われる。	課題は特になし。	学則、募集要項、学校ホームページ、学校パンフレット
7-26-2　入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	入学に関する全てのデータは蓄積し、共有して今後の傾向と対策の根拠資料とするべきである。	合格率、辞退率のデータは毎年蓄積し、管理されている。 入学者数によって使用教室の割り振りに活用している。 また、入学者に対するアンケートを実施しており、傾向の資料としている。	入学者に対するアンケートを実施しているが、専門機関への分析の依頼を検討中。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
ＡＯ入試、推薦入学の受け入れは都の通知に従い募集定員の 70%以内としており、ＡＯ、推薦それぞれの想定定数まで達した場合、ＡＯ入試はエントリーの段階で受付を締め切っており、推薦も出願数が定数まで達した場合、受付を締め切っている。 募集定員も学則での届け出の通り、法令に則って設定している。	入学後に学修のミスマッチが起こらないよう、本校のカリキュラムと本人の求めるものが合致しているかを、出願前に学校説明を兼ねた個別面談を行っている。 入学選考はＡＯ、推薦、一般の３方式で行われる。 学習意欲を願書等で確認し、身体的に問題がなく、入学要件を満たしていれば基本的には合格としている。

最終更新日付	2019 年 2 月 1 日	記載責任者	鴻井　洋一

7-27　学納金

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
7-27-1　経費内容に対応し、学納金を算定しているか	不必要に高額な学費とならないよう､経費内容から算定して設定される。	学納金の算定内容、決定過程は明確にし、学則変更、及び学納金変更申請時に提出している。 学校パンフレット、募集要項､ホームページ等に学納金等徴収する金額は明記している。 また、学納金の水準は適宜把握に努めている。	課題は特になし。	学則、学納金算定資料
7-27-2　入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	文部科学省通知の趣旨に基づいて適宜対処する。	入学辞退者に対して、年度開始前までにその意思を示した場合には､入学金を除く学費を返金する旨を募集要項､及び入学金等納入のご案内にて周知している。	課題は特になし。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学納金については非常にセンシティブな問題であるため、特に注意を払って算定している。 また、支払う学納金に相応しい教育課程となるよう、継続的に検討を行っている。	全学科共通で 1 年次には入学金 20 万円、授業料 60 万円、実習費 30 万円、施設費 40 万円、合計 150 万円。 2 年次には上記から入学金を除いた 130 万円が年間の学納金であり、当校の教材費、施設利用費、研修費等は全て学納金に含まれている。 （ただし、希望者のみ参加する研修旅行は別途費用が必要となる）

最終更新日付	2019 年 2 月 1 日	記載責任者	鴻井　洋一

基準８　財務

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中長期的な考えを基に社会環境の変化、音楽環境の変化に対応するよう、教育環境を整えていくことが、安定した入学者数につながり財務の安定性も確保できると認識している。 現在、財務状況は学校法人全体でとらえると概ね健全な状況にある。 福岡校開校（平成 30 年４月）にあたり建築資金その他準備資金として 借入金が増加したが、入学生徒数も確保でき計画通り６年間で返済予定である。 少子化が進み激しい環境であるが、中長期的に設備投資を考え、それを基に単年度予算を作成し実施していくことで変化に合わせた教育環境を整えていきたい。 財務情報の公開については、学校法人会計基準に準拠した形式によりホームページ等に公開を行っていくようにしたい。	音楽業界を取り巻く環境は、今までにない早いスピードで変化している。計画的に設備の入替を行い、新しい音楽シーンに対応できる人材を育てていきたい。

最終更新日付	2019 年 2 月 1 日	記載責任者	鴻井　洋一

8-28　財務基盤

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
8-28-1　学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	18 歳人口の減少といった厳しい環境が予想されるが、中長期計画に基づき設備投資を行い、教育環境の充実と生徒数確保により財務基盤を安定に保っていく。	校舎、教室、設備など老巧化が進んでいる箇所を優先し、今後の教育活動に必要となる設備に改修又は、建替えを行っていく。	設備投資の規模により、中長期的な視点で自己資金、長期借入、リースなど資金の検討を行っていく。	財務に係る計算書類
8-28-2　学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	財務分析を継続的に行うことにより、その推移を分析し財務基盤の安定にいかす。	主要な財務分析となる事業活動収支計算書関連比率、貸借対照表関連比率の分析を行っていく。	全国専門学校等の平均値、適正数値を調べる。	財務に係る計算書類 財務分析比率表

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
中長期的な考えを基に社会環境の変化、音楽環境の変化に対応するように、校舎、設備などへの投資を行い教育環境を整えていくと共に財務基盤の安定を図っていく。	一部の校舎については、大規模修繕に備え積立金を行っている。

最終更新日付	2019 年 2 月 1 日	記載責任者	鴻井　洋一

8-29　予算・収支計画

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
8-29-1　教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	教育目標を、中期事業計画として策定し、その単年度教育目標として単年度事業計画を策定していく。	予算編成については教育目標を土台に、各学科からの予算案を取りまとめ、各会の承認を得て決定している。	単年度予算作成に重点がおかれ、中期計画は形式的になっている。	単年度事業計画、中・長期事業計画 予算・収支計画書
8-29-2　予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	事業計画により予算を策定し、予算に基づき適正に執行していく。	予算作成を詳細に行うことにより、その執行も計画通り収まるようになってきた。 また、超過が見込まれる場合、予算計上されている予備費から、経理責任者を経由して理事長の承認を受けることで充当することが出来る。	課題は特になし。	経理規程

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
年度予算については、教育目標を基に事業計画が作成され、その執行についても、現状では問題なく行われていると認識している。	

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

8-30　監査

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
8-30-1　私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	寄附行為に基づき、監事による会計監査は適切に行っていく。	私立学校法及び寄付行為に基づき、適切に監査が実施されている。 監査法人による外部監査は必要と認められる場合に実施する事とし、2018 年度は行われていない。	監事による指摘事項はないが、指導助言を受けた場合はそれにしたがい、適正に行っていく。	監事による監査報告書

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
年度ごとに監事による会計監査を実施しており、不正の行為又は法令若しくは寄付行為に違反する重大な事実の指摘はない。	適正な計算書類の作成に努め、監事による監査を実地していく。

最終更新日付	2019 年 2 月 1 日	記載責任者	鴻井　洋一

8-31　財務情報の公開

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
8-31-1　私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	私立学校法第47条に基づき、適切に運用していく。	私立学校法第47条に基づき、財務閲覧規程を定め、事務局に備え置きされており、閲覧の請求があった場合には所定の手続き後、事務局において閲覧することができる体制になっている。 事業報告書も上記と同様である。 ホームページへの掲載は現状では行っていない。	現状は私立学校法に定められている財産目録等の備付け及び閲覧に供する体制を整備している。 将来的にはホームページでの公開を検討している。	財務書類等閲覧規程

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
財務情報の閲覧規程を定め、私立学校法に基づき適切に運用していく。 今後、情報公開はホームページでの公開を検討していく。	

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

基準９　法令等の遵守

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校として各種法令、施行規則、設置基準等様々な基準を満たす必要があり、それぞれの基準を全て網羅し、常時にチェックする必要がある。 各学校のみならず、学校法人全体としてこれらに取り組み、抜けの無いよう体制の整備を継続していく。 特に個人情報保護については現在の情報化社会における重要性と維持の難度が年々上昇しており、対応するべく規程も適宜修正しなければならない。	

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

9-32　関係法令、設置基準等の遵守

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
9-32-1　法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	法令、設置基準、その他関連施行規則等を遵守し、適正な運営が行われなければならない。	学則改正は適宜所轄庁へ届出を行っており、各種規程、及びマニュアル等を法令に即した形で整備し、適切に運用している。	法令では努力義務となっている事項に関しては整備されておらず、整備に向けた準備を行う。	学則改正の届出（最新版） 学則、ハラスメント防止規定

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
法令、設置基準等を遵守し、法令に関連する各種規程は整備され、適切に運用されている。	

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

9-33　個人情報保護

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
9-33-1　学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	個人情報は各部署で扱う関係上、厳重に管理され対策には万全を期するべきである。	個人情報保護規程を整備し、適切に運用している。 また、管理システムは通常のインターネットからは隔離したネットワークを構築し、外部からのアクセス等に備えた危機管理を行っている。	イにおいて確立したシステムにおいて運用されているため、課題は特になし。	個人情報保護規定、情報管理システム運用規定

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
個人情報保護は学校として万全を期するべきであり、規程に従い各部署運用されている。	

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

9-34　学校評価

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
9-34-1　自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	各科、各部門で行い、次年度以降の目標の指針とする。	教務課、各部門責任者で自己評価を行い、副校長、理事会で精査している。	課題は特になし。	学則、自己評価報告書(本資料)
9-34-2　自己評価結果を公表しているか	閲覧できるよう、各校事務局に備え付け、閲覧請求があった場合に、速やかに開示できるよう整備されるべきである。	評価結果については財務帳票と同様、各事務局に備え置きされており、閲覧の請求があった場合、所定の手続き後に閲覧することが出来ることとしている。	世間一般ではホームページ等で公開されることが主流となっているため、今後ホームページ等での公開を検討しなければならない。	寄付行為
9-34-3　学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	今後学校関係者評価を行うよう、委員会、規程等整備を進めるべきである。	現時点において学校関係者評価は行われてない。	今後委員会、規定等の整備を進める。	
9-34-4　学校関係者評価結果を公表しているか	今後、行われ次第閲覧できるよう備え付け、閲覧できるように整備するべきである。	上記の通り、行われていない為、公表もしていない。	今後委員会、規定等の整備を進める。	

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校評価の内、自己評価は法令に則り実施し、公表しているが、学校関係者評価は努力義務であるため、現状は実施されていない。 来年度以降に実施可能なように委員会等整備していく予定である。	

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

9-35　教育情報の公開

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
9-35-1　教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	エンタテインメント業界で活躍したいという人に、広く当校のことを知っていただく機会を設けるべきである。	ホームページ、パンフレット等によって公開されている。 また、母体である㈱ＥＳＰの関連店舗等に資料を配置し、閲覧の機会増加に努めている	より効率的に知っていただく機会を増やすよう、有力な媒体の検討を継続する。	学校ホームページ、学校パンフレット

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
学校として教育情報を広く公表することは必要ではあるが、閲覧者が本当に求める情報なのか検討する必要がある。 また、伝えたい情報と、知りたい情報を整理し、分かり易い内容となるよう、努めなければならない。	エンタテインメント業界誌への情報掲載も行っている。

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

基準１０　社会貢献・地域貢献

大項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
地域貢献に関しては当校の特色を活かし、地域のお祭り等のイベントにおける照明・音響等の協力、また空き時間を利用した生演奏等、各種協力している。 国際交流に関して、ハリウッドへの研修旅行等、学生の視野を広げるべく各プログラムを用意している。	特になし。

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一

10-36　社会貢献・地域貢献

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
10-36-1　学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	地域貢献として近隣町内会等が主催するイベントへ協力等は金銭が発生しない、及び学校運営に影響がない範囲において積極的に地域貢献していくべきである。	業界における即戦力となるよう地域のイベント等にも積極的に協力し、人前で演奏する経験や、スタッフ等との関わる経験を積む。	課題は特になし。	学校ホームページ、ホームページ掲載ＳＮＳ
10-36-2　国際交流に取組んでいるか	提携姉妹校との連携プログラム等、国際化に対応するべく交流を深めていくべきである。	ハリウッドにある姉妹校との海外研修プログラムを整備している。 また、留学生同士の交流、日本人学生と留学生との交流の一助となるべく、国際交流サークル等、各種クラブ活動への参加も奨励している。	現在の海外研修プログラムだけでなく 3 か月の短期留学プログラム等を現在検討中。	学校ホームページ、学校パンフレット

点検中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
在学生も地域貢献をしつつ、現場を体験できるため、良いサイクルが出来ていると考える。 また、ハリウッドにある提携姉妹校とのプログラムの充実を図り、当校だからこそ出来る本場の空気に触れる機会を、今後も継続して整備していく。	左記の通り、提携姉妹校とのプログラムがあり、エンタテインメントの本場であるハリウッドへの研修旅行がある。

最終更新日付	2019 年 2 月 1 日	記載責任者	鴻井　洋一

10-37　ボランティア活動

小項目	ア　考え方・方針・目標	イ　現状・具体的な取組等	ウ　課題と解決方向	エ　イの参照資料等
10-37-1　学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	特にボランティア活動の奨励はしておらず､学生個人の裁量に任せるべきと考えている。	学生個人のボランティア活動は特に奨励はしていないが、学校として地域イベントに協力している。 また、随時学校周辺の清掃活動を行っている。	課題は特になし。	学校ホームページ掲載ＳＮＳ

中項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
ボランティアはあくまで本人の自主性によるものであると認識しており、特に学校として奨励することはしていない。	一般的なボランティア活動ではないが、修得したスキルを活かした地域、社会貢献を行っている。

最終更新日付	2019年2月1日	記載責任者	鴻井　洋一